

令和5年11月2日

富山県美術館ーデザイン・コレクション展 第3期等の開催について

富山県美術館では、2023年11月2日(木曜日)から2024年2月6日(火曜日)まで、3階の展示室5と展示室6において「デザイン・コレクション展 第3期」等を開催しておりますので、ご案内いたします。



概要

会期：2023年11月2日(木曜日)～2024年2月6日(火曜日)まで

場所：富山県美術館3階 展示室5、6

- ・ 展示室5 デザイン・コレクション
- ・ 展示室6 瀧口修造コレクション
- ・ 展示室6 シモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション

休館日：毎週水曜日(1月3日は開館)、12月30日(土曜日)～1月2日(火曜日)

展示内容と見どころ

展示室 5 デザインコレクション

「IPT2024 がやってくる！作品募集中！第 14 回世界ポスタートリエナーレトヤマ 2024 審査員委嘱制作と近年の受賞作品より」



現在富山県美術館では、来秋開催の「第 14 回世界ポスタートリエナーレトヤマ 2024」（略称 = IPT2024）の作品募集を開始しています。

「IPT」の略称で世界に知られるこのポスター展は、富山県立近代美術館としての活動期である 1985 年から 3 年に一度開催してきた日本で唯一の国際公募のポスター展であり、IPT2024 の作品募集・展覧会開催で 14 回目を迎えます。

IPT の応募部門のうち、自主制作の部門である B 部門と、若手と学生が対象の U30 + Student 部門では、毎回、ポスター制作のテーマを設けています。

IPT2024 でのテーマ「Think ()」は、()の中にポスター制作者それぞれが選んだ単語を入れることで、「あなたは何について考え、1 枚のポスターを通して何を伝えたいですか？」という、ポスターのメッセージ性についても考えさせるテーマです。

この自主制作部門テーマのもと、IPT2024 の実行委員や審査員を務める第一線のデザイナーの方々にも制作をお願いしました。新作ポスターとともに、近年の IPT 受賞作品や審査員作品を通して、ポスターという視覚のメッセージを映し出す「世界ポスタートリエナーレトヤマ (IPT)」への期待を高めていただければと思います。

(実行委員、審査員の方々によるポスター「Think()」は、本展示期間中に順次紹介していきます)

公募：第14回世界ポスタートリエナーレトヤマ2024

公募の詳細はこちら <https://tad-toyama.jp/ipt>（外部サイトへリンク）

展示室6 瀧口修造コレクション

「瀧口修造生誕 120 周年記念展示 ウィルソン・リンカーン・システムとしての〈本〉」

瀧口修造生誕 120 周年記念展示

ウィルソン・リンカーン・システムとしての〈本〉

本年は瀧口修造生誕 120 周年にあたり、それを記念し、瀧口資料を分有する富山県美術館と慶應義塾大学アート・センターでの共同企画展示を行います。

本展は富山県美術館（瀧口修造コレクション室）にて行われるとともに、慶應義塾大学（三田キャンパス東館 6 階 G-Lab）で行われるシンポジウムとテーマを共有しています。

詩人、展覧会デザイナー、美術評論家、造形作家と多様な活動を繰り返した瀧口修造（1903-1979）は、選書『手づくりの本（handmade book）』と呼ばれる不可思議な本を制作している。それらは出版社や印刷所のプロセスを経ていない。瀧口自身の手仕事による本であり、雑誌の折り込み、刷紙、タペストリー、手書きのメモ等、いわゆる随筆の寄せ集めのように構成され、完成されているようにも、未定域であるようにも見える本で、『永遠に届じられず、了げきれぬ本』を志向していた瀧口にとって、本が仮定的な状態にあることはとても重要なことだったと考えられる。

このウィルソン・リンカーン・システムとは、右から見るとウィルソン大鏡、右から見るとリンカーン大鏡が見えるといった、左右それぞれから見ると別の顔の浮かび上がる二重の肖像画に似た仕組みであり、瀧口修造による『マルセル・デュシャン展覧会』にもデュシャンの用いた言葉として登場する。

本展では、書店を中心に流通する一般的な本と「手づくりの本」とを対比的に提示し、その間で揺れ動く存在として瀧口の『マルセル・デュシャン展覧会』（1968年）を位置づけます。ウィルソン・リンカーン・システムを想起させるような、双極の間に現れる多様なイメージを持つ本である『マルセル・デュシャン展覧会』を通じて、瀧口がどのような「本」と制作を捉えていたのか、さらには「本」とは何かについて考えます。

●瀧口修造生誕 120 周年記念展示
ウィルソン・リンカーン・システムとしての〈本〉
2023年11月1日（土）- 2023年11月15日（日） 富山県美術館展示室
開催時間：9時30分-17時（入場は17時30分まで）
休館日：毎週土曜日（祝日除く） 祝日の前日・祭日祭日・臨時休館・休館する場合があります
主催：富山県美術館、慶應義塾大学アート・センター

●瀧口修造生誕 120 周年記念シンポジウム
瀧口修造の「本」の制作と「本」の制作の多岐多岐をめぐって
2023年11月11日（日） 慶應義塾大学三田キャンパス東館 6 階 G-Lab
主催：富山県美術館、慶應義塾大学アート・センター

●瀧口修造展覧会：慶應義塾大学アート・センターでは、2023年に瀧口修造の展覧会を開催することを決定し、本展を開催しています。2023年の秋に富山県美術館で開催された展覧会を踏まえ、本展では「本」として「マルセル・デュシャン展覧会」の制作過程を研究し、展示しています。

●「手づくりの本」の制作過程
本展では、瀧口修造の「手づくりの本」の制作過程を研究し、展示しています。本展では、瀧口修造の「手づくりの本」の制作過程を研究し、展示しています。

富山県美術館 電話：076-232-2271
富山県美術館 電話：076-232-2272
富山県美術館 電話：076-232-2273
info@fmnmuseum.jp



本年は瀧口修造生誕 120 周年にあたり、それを記念し、瀧口資料を分有する富山県美術館と慶應義塾大学アート・センターでの共同企画展示を行います。

本展は富山県美術館（瀧口修造コレクション室）にて行われるとともに、慶應義塾大学（三田キャンパス東館 6 階 G-Lab）で行われるシンポジウムとテーマを共有しています。

詩人、展覧会のオーガナイザー、美術評論家、造形作家と多様な活動を繰り広げた瀧口修造(1903 - 1979)は、通称「手づくり本(handmade brochure)」と呼ばれる不可思議な本を制作しています。それらは出版社や印刷所のプロセスを経ていない、瀧口自身の手仕事による本であり、雑誌の切り抜き、銀紙、ラベル・シール、手書きのメモ等、いわゆる断片の寄せ集めによって構成され、完成されているようにも、未完成であるようにも見える本です。「永遠に綴じられず、丁づけされない本」を志向していた瀧口にとって、本が仮設的な状態にあることはとても重要なことだったと考えられます。

ウィルソン・リンカーン・システムとは、左から見るとウィルソン大統領が、右から見るとリンカーン大統領が見えるといった、左右それぞれから見ると別の顔が浮かび上がる二重の肖像画に似た仕組みであり、瀧口修造による『マルセル・デュシャン語録』にもデュシャンの用いた言葉として登場します。

本展では、書店を中心に流通する一般的な本と「手づくり本」とを対極的存在として措置し、その間で揺れ動く存在として瀧口の『マルセル・デュシャン語録』(1968年)を位置づけます。ウィルソン・リンカーン・システムを想起させるような、双極の間に現れる多重なイメージを持った本である『マルセル・デュシャン語録』を通して、瀧口がどのように「本」と制作を捉えていたのか、さらには「本」とは何かについて考えます。

共催：富山県美術館、慶應義塾大学アート・センター

チラシ(PDF：485KB)

【瀧口修造生誕 120 周年記念シンポジウム】

瀧口修造研究会特別例会 パピエプリエ 01：蝶番のタブローをつくること(曲尺や書物などのように……)

2023年12月9日、13時00分～16時00分 | 慶應義塾大学三田キャンパス東館6階 G-Lab

主催：瀧口修造研究会(慶應義塾大学アート・センター)

お問い合わせ：慶應義塾大学アート・センター(外部サイトへリンク)

展示室 6 シモン・ゴールドベルク & 山根美代子コレクション

テーマ：「ソリストとしてのシモン・ゴールドベルクとピアニスト(1) ラドゥ・ルプー」



20世紀を代表するヴァイオリニストで指揮者であったシモン・ゴールドベルク(1909－1993)。シモンがソリストとして演奏するとき共演したピアニストに焦点を当て、シモンとの演奏活動の様子を示す資料を二期に渡ってご紹介します。

シリーズ第一回目は、ルーマニア出身のピアニスト、ラドゥ・ルプー(1945－2022)を取り上げます。

二人が出会ったのは、シモンが審査員として参加したリーズ国際ピアノコンクールでした。シモンは、ラドゥが演奏したシューベルトの《即興曲集 第1番 D. 899 Op. 90-1 ハ短調》を聴き、彼の演奏を大いに称賛しました。この出会いがきっかけとなり、二人は、70年代のロンドンを舞台にデュオを組んで演奏活動を展開します。

美しいものを愛したシモンが収集した美術作品とともに、彼と若きピアニストの繊細な音楽を介した交流に思いをはせてみてください。

観覧料

コレクション展：一般 300 円(240 円) ()内は 20 名以上の団体料金

【次の方はコレクション展の観覧無料】

- ・ 小・中・高校生と大学生、70 歳以上の方
- ・ 学校教育、社会教育活動としての児童・生徒の引率者
(観覧料免除申請書の提出が必要)
- ・ 各種手帳をお持ちの障がい者の方
(手帳所有の方 1 名につき付き添い 1 名まで無料)

(※)詳しくは、富山県美術館ご利用案内(外部サイトリンク)をご覧ください。

コレクション展について

富山県美術館のコレクション展では、前身の富山県立近代美術館から現在までの収蔵作品を展示しています。年4回程度さまざまなテーマによる展示替えを行い、多彩なコレクションを紹介。当館2階の展示室1では絵画・彫刻を中心とし、3階の展示室5と展示室6ではポスターや椅子、富山県ゆかりの瀧口修造やシモン・ゴールドベルクのコレクションを展示しています。

**MAKE
TOYAMA
STYLE**
BEYOND CORONA, WITH US

